

令和8年5月27日

まちづくり委員会資料

公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

建設緑政局

1 背景と課題

本市では、「川崎市緑の基本計画」に基づく市民等との協働の取組として、公園等の管理運営に関する活動が全市的に広がってきましたが、活動団体の高齢化や世代交代の停滞により担い手不足が生じているほか、公園緑地への利用ニーズが多様化しているため、協働の取組の持続性確保と公共空間としての公園等の活用が喫緊の課題となっています。

■課題

- ・ 協働の取組の持続性確保
- ・ 公共空間としての公園等の活用

対応

これまでの公園管理者主体の取組から、市民、企業、団体などの多様な主体に関わってもらい、新たな担い手を育てる仕組みや公園等における多様なニーズに対応した新たな取組を進めることで、『みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園（持続的な管理運営）』を目指す

こうした中、全国都市緑化かわさきフェア開催を契機として、まちなかの多様なみどりへの市民の関心が高まるとともに、花苗づくりやフェアボランティアなどを通じた体験も全市的に広がっており、これからの100年に向けて、公園等における持続的な取組を推進するためのグリーンコミュニティの形成をかわさきフェアのレガシーとして取り組んでいます。

2 グリーンコミュニティの形成

“公の管理”だけ、“ボランティアや協働”だけでなく、まちに関わるみんなで一緒に、私たちのまちについて考えていく。みどりを軸に市民、企業、大学など、多様な主体のつながりが増え、多世代が関わるほど、まちの価値・持続可能性が高まる。これまでの取組や緑化フェアを機に一定のつながりはできたが、もっと多くの人を巻き込み、つながる機会をつくる必要がある。

◆みどりを通じた連携の機会 (マッチング)

- 多様な主体や団体同士が出会い・連携する機会
- 多業種・多職種が出会い・発見し、一緒に取り組む機会

◆みどりの先進的取組を生む機会 (新しい価値の創出)

- これまでになかった新しいみどりの価値や効果を生む機会
- 研究成果の日常への実装

みどりでつなげる
暮らしやすく住み続けたいまち

◆みどりに関わり続ける機会 (継続・活性化)

- 継続してみどりに関わってもらえる機会
- 多世代が一緒になって活動する機会

◆みどりに触れる機会 (関係人口の増加)

- みどりに関心のない・関わっていない人に
関心を持ってもらう機会

3 みどりを通じた連携の機会（マッチング）

市民、企業、団体など多様な主体に関わってもらい、新たな担い手を育て、持続的な協働の取組を進めてきました。全国都市緑化かわさきフェアを契機に高まった市民の「緑への関心」を踏まえ、地域でつながり、公園に関わる人や機会が増えることで、公園や地域の魅力・価値が向上し、市民等の『したい』が実現することを目指しています。



<活動チラシ
作成支援>



自分でも何かできるか
考えるきっかけ

公園での活動を知
るきっかけ

みんなが
気持ちよく、
いきいき過ごせる
公園

公園の
活用を支援



公園での活動に
参加するきっかけ



<スターターブック>



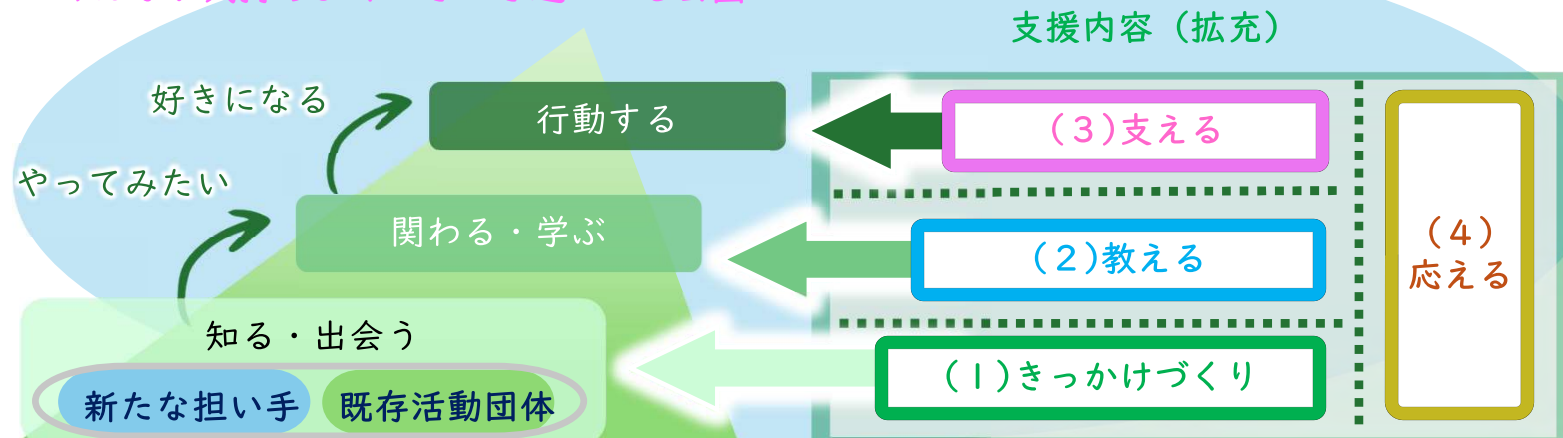
<イドバタパークデイ>

4 みどりに関わり続ける機会（人材育成）

市民等の『したい』が実現して持続的な活動につながるよう、多様な主体が公園緑地等で活動するまでのステップを整理しました。それぞれのステップでの適切な支援によって人材を育てる仕組みを構築し、支援内容を拡充しています。

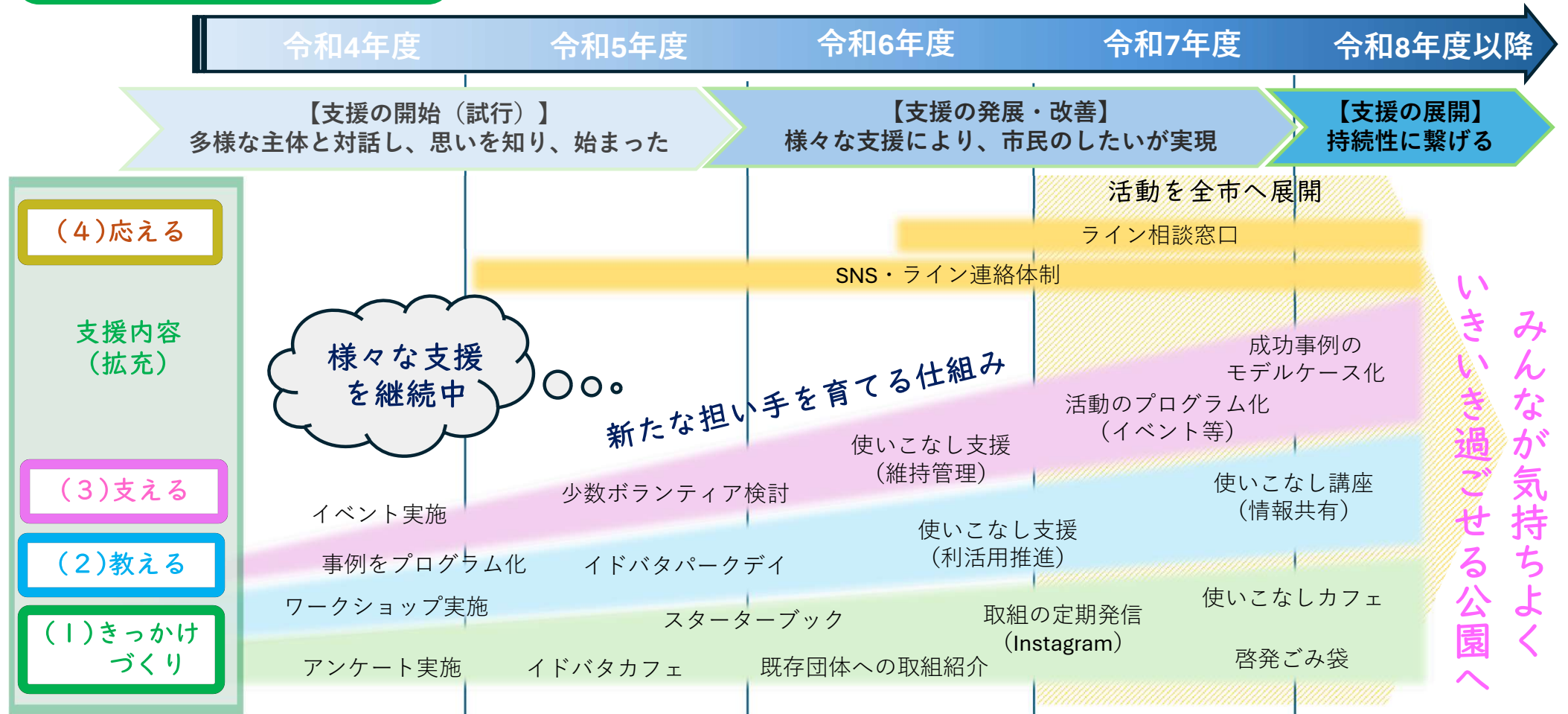
新たな担い手を育てる仕組み

みんなが気持ちよくいきいき過ごせる公園へ



公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

5 様々な支援の実施



6 成功事例のモデルケース化

新たな担い手を育てる仕組みに基づき、幸区内の学童保育施設（民間）が公園緑地愛護会として公園での維持管理活動に繋がった事例をモデルケースとして、活動プロセスや支援内容などのノウハウを共有し、高津区にある類似団体へアプローチしています。

今後も、このような成功事例を全市へ展開して、持続的な協働の取組（管理運営）を目指します。

地域に根差した団体の活動モデルケース①

『学童保育施設による公園愛護活動』

<モデルケースの例>

団体概要

民間学童保育施設。川崎市内などで複数の園を展開。日常的に外遊びの場として、近くの「北加瀬ゆりのき公園」を利用。

活動内容
公園緑地愛護会の活動

主な活動者
児童、施設職員



団体が抱える課題・想い

- ・民間学童として、地域団体や町内会等との継続的な接点づくりに課題があった
- ・子どもが「やらされる」のではなく、主体的に関われる活動の形を模索していた
- ・子どもたちに、ボランティア活動を通じた体験や学びの機会を提供したいと考えていた

公園活動を通じた実践

身近な公園での清掃活動をきっかけに、子どもたちが公園や地域に関わる小さな活動をスタート。

子どもたちが「どんな公園にしたいか」を考える機会をつくり、遊びや季節イベントなど、子どものアイデアを活かした活動へと広がっています。

活動の様子を公園で発信することで、地域の方との自然な接点も生まれ、日常的な公園活動として継続しています。



月に1回外遊び前10分間の清掃活動

負担感が
少なく活動が
継続しやすい



夏休みの水遊びイベント

水遊びや打ち水体験
から、遊びと学びを
結びつける体験



なぜ活動が定着したか（成功要因）

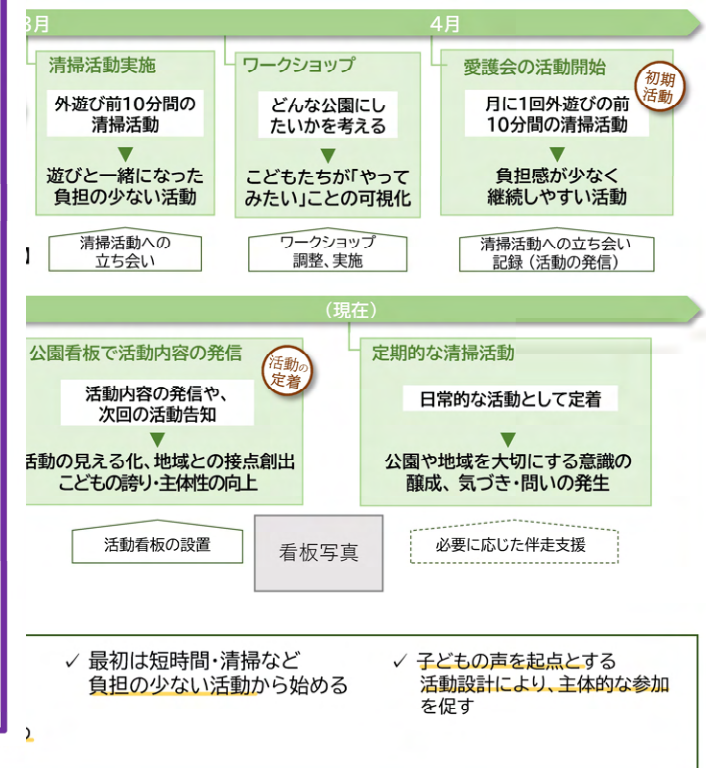
- ◎ 身近な公園 × 日常日常の外遊びの延長 として活動できたこと
- ◎ 短時間・低負荷の活動 から始めたこと
- ◎ 子どもたちの「やってみたい」という声を起点に活動を広げたこと
- ◎ 活動初期の伴走支援があったこと
- ◎ 遊びと学びの一体化

このモデルを活かしやすい団体

- 日常的に公園を利用している
- 小さく、無理なく活動を始めたい
- 子ども(若い世代)の主体性を大切にしたい活動を行いたい
- 公園をきっかけに地域との関係づくりを進めたい

流れが再現可能

『学童保育施設による公園愛護活動』



7 今後の展望

市民等の「したい」が「できた」へ変わる”成功体験”を通じ、新たな担い手が自立した団体へ成長することで、持続的な協働の取組に発展し、『みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園』の実現に取り組んでいきます。

8 (仮称) 公園で“〇〇もできる！”(特色ある公園づくり)

持続的な協働の取組の一つとして、多様化している利用ニーズにも対応するため、いろいろな思いが実現できる場を目指して、地域の方々と話し合いを行いながら、例えば『思いっきりボール遊びができる』、『オリジナルな花壇が設置できる』など、『公園で実現したいこと＝公園で“〇〇もできる！”』取組についてモデル公園を設定し、各区で実施してまいります。

これまでの身近な公園



《 背景と課題 》

- ・地域の公園は、これまで画一的な整備
- ・ボール遊び禁止などや規制の多さから閉鎖的な印象
- ・地域住民にとって『自分たちの公園、地域の公園』という意識には至っておらず、活用が不十分

公園で“〇〇もできる！”

本画像はイメージ図であり、AIにより生成したものです。



市民が草花を持ち寄った
オリジナル花壇の設置



思いっきりボール遊びできる
時間や範囲を設定

《 目指すべき方向性 》

- ・地域の公園として一緒に考え、みんなで育てていくことにより、自由に使いこなされる公園
- ・地域が主体となった管理運営により、公園を起点としたコミュニティが生まれ、まちの魅力が向上

取組イメージ

育てるきっかけづくりの場

地域住民や利用者など関係者と行政と一緒に、課題について理解し、地域が求める公園の姿や利用ルール等について、話し合い、考えていく。



地域の思いを実現する場

地域住民の思いにより、公園で〇〇もできるなど、魅力的で、自由に活用できる公園にしていく。

地域が関わり続けられる場

地域住民が公園に愛着を持ち、『自分たちの公園・地域の公園』という思いから、管理運営が継続される公園を目指す。

9 かわさき里山コラボ事業

企業や教育機関等の参加協力を得て、保安全管理活動を主とした実践的な里山の保安全管理を実施。また、企業等の意向により、環境教育や福利厚生等に活用していただき、保全と活用の好循環を目指します。なお、保全活動に先立ち、その里山について、緑地の将来像や保全・活用の方向性について関係者で意見交換を行い、保安全管理計画を策定しています。

企業等のメリット

CSR活動 生物多様性 社員研修
地域貢献 環境教育

川崎市のメリット

地域活性化 管理費軽減
定期的な
保安全管理

協定締結状況（9地区）及び今後の予定 ※【 】緑地名

平成25年度	富士通FTP【栗木山王山】、川崎信用金庫【王禅寺東】
平成26年度	NECプラットフォームズ【久末東】、岡上小学校・和光大学【岡上丸山】※R7明治大学が活動協力で参加
平成29年度	日本ロレアル【久末イノ木】
令和 5年度	まいばすけっと【水沢】
令和 6年度	地域環境計画【西黒川】、アジア航測【真福寺谷】
令和 7年度	日本ミクニヤ【久末小貝谷】
令和 9年度	日油川崎事業所【下作延西谷】協定締結予定（令和7年度 覚書締結）

R2. 1～ 新型コロナウイルス感染症の発生

R6. 10～ 全国都市緑化かわさきフェア（秋）開催

R7. 3～ 全国都市緑化かわさきフェア（春）開催



10 花づくり・花かざりの取組

「花づくり・花かざり」は、緑化フェア開催を契機に始まった、学校で育てた花を地域みなさんに見てもらうことで、子ども・学校・地域をつなぐ取組です。

市立の小学校・中学校・特別支援学校が参加し、育てた花の一部は地域の方々の協力のもと、公園やまちの中で大切に育てられています。

ねらい 花という“みどり”をきっかけに、子ども・学校・地域がつながり、川崎のまちづくりにみんなで参加する経験を育てます。

みどりを通して社会とつながり

花を介して「自分→地域→社会」へのつながりを体感できる

主体的な関わり

自らみどりに関わり、みどりを育てる体験が、子どもたちの主体性を引き出す

自分たちのまちに貢献する

川崎としての“共通した市民性・社会参画の基盤”を育てる

年間の流れ

準備

5～9月頃
苗の希望数の確認や
材料の受取

花づくり

9～10月頃
プラグ苗(小さな苗)を
ポットに植えて育成

花かざり

11～12月頃
校内や地域の
公園等にかざる

振り返り

1～2月頃
来年度に向けた
振り返りを実施

→ 来年度へ



公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

II 活動を知り・参加を促すための広報

これまでは、市、指定管理者、団体、出資法人等の各主体が、それぞれの施設の魅力やまちなかでの活動、公園緑地でのイベント情報を発信し、効果的な広報となっていなかった面がありました。

また、緑化フェア開催時や、施策評価での市民アンケートでも「もっと川崎の緑の活動を広報してほしい」「関心がないわけではないが、具体的にどう参加するのかわからない」「興味はあるが、開催を知る機会がない」という声もありました。



みどりの総合情報サイト
「Green For All KAWASAKI」

情報のミスマッチの解消

(もったいないを減らす)

良い取組だけど“知らない”を解消

情報が集まる場づくり

(ここを見ればわかる！)

「みどりの総合情報サイト」の開設





「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」

